

とよなか 環境



ニュースレター

発行：NPO法人とよなか市民環境会議『エナ』21
編集責任者：奥野 享
事務局：豊中市環境情報サロン内
〒561-0804 豊中市曽根南町1-4-3
Tel:06-6863-8792 Fax:06-6863-8734

この号のハイライト

P.1 エコポイント/P.2 機密書類リサイクル/P.3 とよっぴーアンケート/P.4 むし調べ/P.5 エコカレンダーまとめ/P.6 太陽光発電/P.7 環境政策室/P.8 今後のスケジュール

2009年(平成21年)夏号 NO.27 (通巻第45号)

豊中市独自のエコポイント「とよか」を発行

地球温暖化の防止には、家庭での省エネが重要ですが、多くの方が「やってみよう」という気になったり、省エネについて気軽に相談でき、具体的なアドバイスがあればもっと進むと考えています。そこで、豊中市が「地球温暖化防止地域計画(チャレンジマイナス70プラン)」を進める仕組みとして、省エネ相談会や省エネ診断の実施、エコポイントの発行を始めました。

まず、商店街や公共施設、イベント会場で「省エネ相談会」を開催し、家電や住宅の省エネについて相談できるようにします。さらに、まちの電気屋さんの中から必要な講習を受けて市に登録した「省エネマイスター」がそれぞれの家庭に訪問して、実際家電製品を見て省エネについて診断・アドバイスする「省エネ診断」も実施します。これらを受けた方など、省エネにつながる行動をした人には、市内のいくつかの商店街で使えるエコポイント「とよか」を配布します。

この「とよか」はいわゆる商品券で、100ポイ

ント=100円に換算して使えます。詳しくは、ホームページ(<http://toyonaka5070.jp/>)等をご覧ください。

ところで、国が行う緊急経済対策のひとつとして、省エネ家電を購入する際の「エコポイント」が報道され、話題になっていますが、豊中の制度はこれとは関係なく、独自の制度です。

この事業は、豊中市とNPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21が契約して協働で作業にあたり、関係団体による「豊中市チャレンジマイナス70推進協

議会」も立ち上がりました。ただし、今年は特定の省エネ行動に限ったり、使えるお店も一部の商店街等に限って試行し、その中で改善点をみつけて完全実施につなげるモデル事業として実施します。

この仕組みによって省エネにつながる行動のきっかけが増え、最終的に地球温暖化の防止につながることを目的ですが、せっかくなら豊中の地域経済にも貢献できればと考えています。(井上和彦)



定額給付金の寄付をお願い

経済対策の一環として、定額給付金が給付されています。定額給付金は地域活性化という意味があることから、その利用方法としてNPO団体などに寄付をして、地域貢献しようという動きがあります。

そこで、アジェンダでも定額給付金寄付キャンペーンとして、今年4月1日から募集を開始しました。定額給付金が支給されるこの機会に、地域の環境を良くすることをめざす当団体の活動に対し、地域貢献の一環として寄付をお願いしています。

また、寄付を通して当団体のことをもっと知っていただきたいので、寄付をいただいた方には金額に

応じて、竹炭プロジェクトが作った竹炭や、花と緑のネットワークとよながが配布・頒布している「とよっぴー」の無料引換券などを特典としてプレゼントします。

おかげさまで、豊中市内で多くの方に定額給付金が支給され始めたゴールデンウィーク明け以降、数人の方からご寄付をいただきました(お名前は8ページに掲載)。

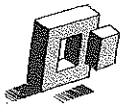
キャンペーンは6月末まで行っておりますので、「キャンペーンのことを知らなかった」「私も寄付するよ」という方は、ぜひ事務局までお問合せください。特典を用意して、お待ちしております。

(廣田学)

とよなか市民環境会議とNPOアジェンダ21の総会を開きます

今年の総会は6月17日(水) 13時30分から、豊中市立市民会館で、とよなか市民環境会議とNPO法人アジェンダ21との共催で開きます。冒頭の

記念講演をお願いしているのは、堤幸一さん(京都造形芸術大学講師)で「地域に根ざした環境のまちづくり」と題したお話です。



事業部会

紙資源を燃やさないで！ 機密書類リサイクル

4月28日(火)、第4回機密書類リサイクルの取り組みを行いました。2006年から年1回程度実験に取り組んできた機密書類のリサイクルですが、今年度より年2回(4月と10月)定期的に行うことになりました。今回は13の事業所の参加があり、今までも参加いただいている企業や病院の他新たな事業所が増え、幼稚園や個人の参加もあり幅広い層がいっしょに取り組むことができました。

午後1時30分、収集場所として協力いただいた豊中市伊丹市クリーンランドに機密書類が次々と運び込まれ、車ごと計量した後大型トラックに積み込みました。今回から直接車で持ち込みができない事業所のために回収も行うことになり、当日の午前中から午後にかけて5カ所の事業所を回りました。

回収はパナソニック溶接システム(株)のご好意でお借りしたトラックで回り、クリーンランドで大型トラックに積み替えました。今回の回収量は全部で約3.2トンになり、今まで事業所や家庭で眠っていた機密書類が次々と運び込まれ、トラックはあっという間にいっ



ぱいになりました。トラックはそのまま高槻にある大和紙料(株)へ向かい、到着後すぐに溶解槽への投入作業が始まりました。アジェンダのメンバー2人と豊中市減量推進課の職員も同行し、すべてのダンボールが投入されるまでをきっちりと確認し、溶解証明書をいただいで帰りました。

この取り組みは、個人情報やその他の機密情報が載った資料は回収業者に出すことができないためにシュレッダーがけをして燃やしている事業所が多いことから、再生して紙資源として活用することはできないかと始まった取り組みです。多くの事業所がいっしょに取り組む環境活動のシステム作りということで、今回は参加者を増やすことに重点をおきましたが、今後は

事業として成り立つことができるように進めていきたいと思います。

次回は10月に実施予定。大量でも少量でも持ち込みできます。事業所や家庭で貯まっている機密書類がある方はぜひご参加ください。

(茨木かづ子)

事務局体制が替わりました

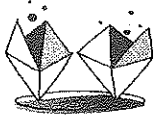


今年の4月からアジェンダの事務局長に就任いたしました廣田学と申します。豊中生まれ・豊中育ち・豊中在住で、アジェンダ会員歴8年の29歳です。

私が入会した当時の事務局はまだ市役所内にありました。そこから市民が自立し、NPO法人化して以

降の事務局は、組織としての基盤づくりを中心に取り組んできました。これまでを第1期と捉えるならば、これからは第2期として、新規事業の獲得などによる組織の基盤強化や、アジェンダのさらなる周知を図るなど、新たな取り組みにもトライしていきたいと考えています。

なお、井上前事務局長は4月より副理事長としてこれまで同様に事務局におりますので、一緒に協力しながら、組織としての蓄積は継続しつつ、第2期の事務局として充実した体制で臨んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。



花と緑のネットワークとよなか

「とよっぴー」の頒布でアンケート、 購入者の評価にひと安心

これまで「とよっぴー」頒布の際は、購入者の皆様に「とよっぴー」の評価をいただく追跡調査のため、お名前や住所を記入いただいてきました。

しかし、現場での記入手間がかかることや購入者の要望もあり、4月から廃止することを前提に3月の頒布日（14日及び25日）に「とよっぴー」に関するアンケートを実施しました。

結果は「とよっぴー」に対する評価が高いことや堆肥化事業についての反応も良く、継続を求める回答が多くありました。いくつかの設問の回答結果を報告します。

（調査は継続購入者と新規購入者に分けて実施しましたが、全体で整理し回答総数は96人でした。）

品質では全回答者の70.5%が良いと回答し、悪いは2.5%でした。値段では安いのが59.0%と少しトーンダウンし、普通が33.3%あり、高いは7.7%でした。

使用効果の問いでは、①効果があるが85.9% ②効果がないが11.5%で効果を認める回答が支配的でした。

次に「とよっぴー」の製造については、①燃やさないことに対する評価が31.7% ②資源循環に対する評価が32.2% ③環境教育に効果があるが19.0% ④費用がかかる事業という回答が1.5% ⑤もっと多く買いたいが3.4% ⑥購入場所と時間の拡大が10.7% という結果となり、有機性資源（生ごみ）の利用活用に対して環境の側面も含め評価する意見が6割を越えました。

また、堆肥化事業の継続については、今後も続けるべきという答えが91.7%と、圧倒的に事業継続を求めていることが判明しました。さらに今後も「とよっぴー」を使用しますかという問いには、今後も使用したいが95.8%を占め、堆肥に対するニーズの高いことが分かりました。

このように、購入者の反応としてはこれまで「とよっぴー」を使用してきた経験則に照らしながら、評価の判断がなされており、環境の保全や環境教育にも影響を与えていると認識し、自らが今後も使いたいという意思表示をされている結果が導かれました。（中村義世）

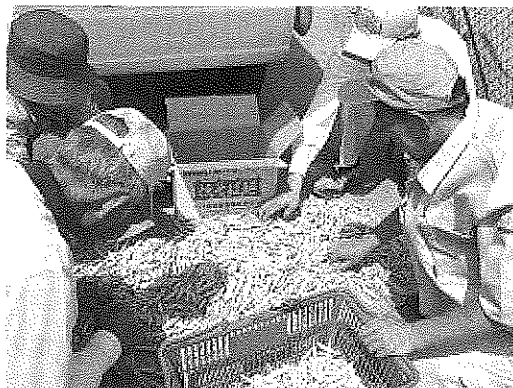
地元の小学生もエンドウ豆の収穫体験、給食に豆ご飯

5月12日、13日と地元の小学生が豊中市農業経営者協議会研究部会会員の農園でエンドウ豆の収穫作業を体験しました。これは、昨年豊南小の児童が地域の農家（光久農園）の協力を得て「エンドウ豆の収穫と豆むき」という貴重な体験をしたことから、それをさらに広げたいと学校給食課より依頼を受け、同部会のお二人が取り組まれたのです。合わせて150kgにもなり5月15日の豆ごはんに使われました。

花と緑のネットワークも5人で走井にある農園の収穫手伝いに行ってきました。両手を忙しく使いながらどんどん摘み取っていき結構楽しい作業でしたが、これを一人で収穫される農家は大変な根気があることで本当に頭が下がります。

振り返ってみますと2005年6月22日、花と緑

のメンバーでもある一人の農家の青ネギ納入（33kg）から始まった豊中の地産地消。その年の正月明け、豊

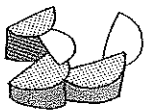


えんどう豆を選別しているところ

中の特産しろなを給食用に栽培してもらえないかという栄養士さんのお考えを知り、農家との橋渡しを微力ながらさせていただきました。2000人の学校給食、青ネギなら挑戦してみますということではじまりましたが、試行錯誤の連続だったようです。そのときの収穫作業をお手伝いしたことがずいぶん昔のように思い出されます。

今日では資源の循環だけでなく学校をあげて食育まで発展させてきたことと、子どもたちに地元のものという熱意や努力を払われた関係者に敬意を表し、野菜を提供してくださる農家をこれからも応援していきたいと思ひます。

（高島邦子）



自然部会

あなたも「むしの写真」を撮ってみませんか

とよなか市民環境会議アジェンダ21自然部会では、2009年度の活動の中で、一般の市民に呼びかけて、「写真による豊中の‘むし’調べ」を行います。期間は4月から10月までです。豊中市域であればどこでもかまいません。また、いわゆる‘むし’であれば、あなたが考えるものなら何でも結構です。ゲジゲジでも、ムカデでもナメクジでもダンゴムシでもかまいません。あなたが見つけた‘むし’をどんどん撮影して事務局に送ってください。ただしペットショップや、デパートで買ったものや、よそから持ち込んで羽化させたものはだめです。

期間は

第1期(4月～6月) 提出期限 7月10日(金)

第2期(7月～8月) 提出期限 9月11日(金)

第3期(9月～10月) 提出期限 11月13日(金)

提出先は、NPOアジェンダ事務局

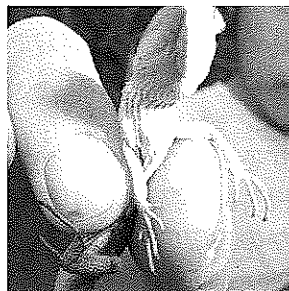
なぜ「写真による豊中の‘むし’調べ」か

1960年代から急速に開発が進み、豊中の自然も大きく変化してきました。丘陵地(豊中では山)が切り開かれ、田圃がうめたてられ住宅地が変わっていきました。そのため、そこを棲みかとしていた生物は生活の場を奪われ、多くは消えて行きました。かつて「緑の都豊中市」と謳われた面影は見る影もなくなりました。

心ある人達は、せめて20世紀の豊中の生物の姿を記録に留めておかないと大変なことになる。と心配されて、いろいろ提案をいただきました。残念ながら私達はこれを受け止められず、今日に至りました。この

間にも、私達は一般の市民でもできる方法を模索してきました。

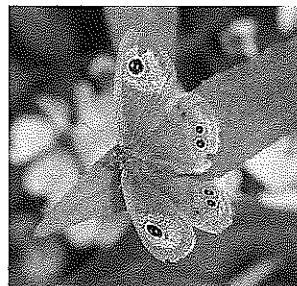
‘むし’の撮影について



虫の撮影といっても、いろいろ工夫も必要になると思います。空中を飛び回るもの、水中を泳ぎ回るもの、地中や石の下・落ち葉の下で生活しているもの、夜活動するもの等撮影しにくいものもあります。工夫して

素晴らしい写真をたくさん撮ってお送りください。

最近のカメラの機能の進歩は著しく、だれでもすばらしい写真を撮ることができるようになりました。ひと頃前には考えられなかったことです。この機能を生かせないかということを考えました。



自然部会は発足当初から“自然に親しみ学ぶ” “自然を守り育てる” “自然を作り広げる” という3つのモットーがあります。広く市民の方々が“むし”を探ること、追いかけることで、自然に親しんでもらい関心を持ってもらえれば、専門的な学術調査でなくてもよいのではないかということになりました。

(山口壽)

子どものボランティア、れんげ祭で太陽光発電のカンパ集め



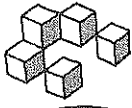
4月29日に行われたれんげ祭には、ライオンズクラブのテントで、太陽光発電や省エネのパンフのPRとともに、手回し発電機を持って行き子どもたちと遊びました。スタッフ

2人で昼食を取るのも交代で行っていたところ、箕輪小学校の子どもたちがボランティアを買って出て

くれました。

子どもたち数人のボランティアは、その内にレベルアップし、そばに置いていた太陽光発電のカンパ箱を持って会場内を回りはじめ、太陽光発電のカンパの意義を聞きに戻ってきたりしては、あちこちをまわり、最後に集まったカンパを数えたところ小銭ばかりで5328円もありびっくり。

最後に子どもみんなの名前を聞きました。箕輪小学校5年生、山本のりとし君、いの上まさや君、田村ゆう人君、2年生の田村もとき君、の4人でした。「皆さん、ほんとうにありがとう」 (奥野)



生活部会

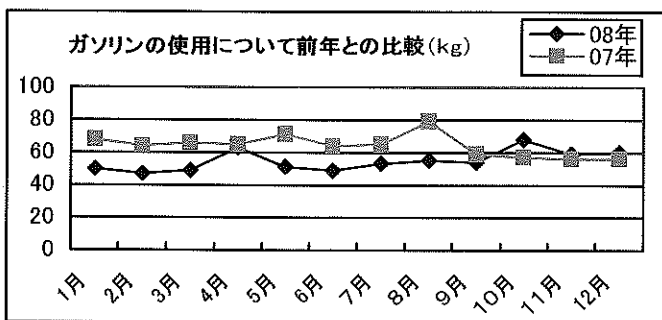
昨年のエコライフカレンダー活動の結果がまとまる

昨年1年間のエコライフカレンダー活動（豊中市民版環境家計簿）のまとめができました。A4版で本文22ページ、モニターの事例研究も2例取り上げられ、エコな暮らしのあれこれ具体的に分かるところが魅力です。

一昨年の活動では、暖冬による電気・ガスの使用量の減少が環境家計簿にも反映されていました。今回のまとめを見ると、前年に比べ電気が+2%、ガスが+1%と微増でした。その微増をひっくり返すようにガソリンの使用が前年に比べ18%も減っていたので、総トータルのCO2排出量削減にも貢献していました。

ガソリンの使用が減りました

ガソリン使用量の減少については、7月から9月にかけて目をむくようなガソリン値上げがあったのは記憶に新しいところですが、グラフにして眺めると1月からずっと前年を下回るガソリン使用の減少が続きます。それと、グラフで感じられたのは、4月ごろから値上げの気配が話題になり、そのためゴールデンウィークに向けてちょっとだけガソリンを先買いしたのか、4月が昨年とほぼ同じぐらいに近づいて5月が再び節約モードになっていることでした。



太陽光発電をつけた方がモニターに

2008年4月からは、太陽光発電の設置について豊中市が補助金を出すことになり、補助金を受けた方がみなモニターになられました。そのための年末までのモニターは34世帯。総モニター数の20%弱でしたが、それら太陽光発電の設置をされた方は、家族数などの関係から電気の使用量の多い

お家だったのででしょうか、10月から年末にかけて電気の使用量が多いことについてそんなことも想像させられています。

事例研究では、2006年に太陽光発電を付けたモニターの経験がまとめられていて興味ぶかいものがありました。1年分の太陽光発電の効果を料金とCO2排出量との両方で表にしていますが、オール電化にしているので経済面では支出が半分以下になり、家計の財布は大助かりであることと、CO2排出量の点でも30%余りの削減になっていることが、興味を引く報告でした。

また今回のまとめに当たり、パナソニックの退職者・松愛会の皆さん40人からも別の方式で環境家計簿をつけたデータが寄せられました。いっしょの集計には出来ませんでした。今後新しい仲間が増えるであろうと期待しています。

今後、太陽光発電をつけたモニターが多くなっていくに従い、どのようなデータの変化が起こるか、来年の集計が楽しみでもあります。

「まとめ」の冊子は残部がありますからどうぞアジェンダの事務局にお問い合わせください。（奥野）

可愛いポケットティッシュのケース

生活部会ではエコライフカレンダーのモニターを中心に、2カ月ごとに手作り講習会をおこなっています。最近では3月10日10時から環境情報サロンでポケットティッシュのケース作りを開催。参加者は8人、久しぶりに針を使って袋を縫うのに戸惑いを感じたりしながらも楽しく指を動かし、ポケットティッシュを入れるかわいいケースができあがりました。

細長い布をたたんで両端を縫うだけの簡単手作りなので、口布部分にリックラックテープを刺繍糸で飾りました。テープや刺繍糸の色を選ぶのにワクワク、自分だけのオリジナルが完成しました。

環境クイズ

低炭素社会のためには、排出量取引が有効な手段としてEUや米国では企業間でも積極的に進められています。その実績からほぼ取引価格が安定しつつあるようですが、どれ位の価格でしょうか？

CO₂トン当たり ①3千円 ②3万円 ③30万円

(こたえは8ページ)

市民による太陽光発電稼働中

市民がお金を出し合い、環境情報サロンに設置したエコSUN市民発電（太陽光発電）が2008年3月に稼働してから1年が過ぎました。

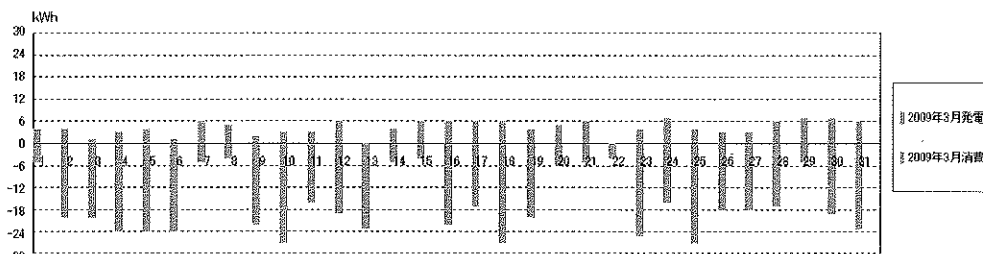
設置した太陽光パネルは発電容量2.16kWで、一般家庭での消費をまかなうのに5kW程度必要という統計もありますので少し小さい規模です。2009年4月末まで（約13ヶ月半）に1.708kWhの発電を行い、環境情報サロンの消費6.482kWhの約4分の1程度をまかなっている計算になります。

設置のための寄付は、この第1号機設置にかかった費用にあと一歩というところまで集まっていますが、もう少し必要という状況です。この取り組みは、この施設の電力をまかなうだけでなく、広く市民への普及が目的です。豊中市も家庭での太陽光発電の補助制度を設けており、昨年度は54件の補助を行ったそうです。今年度は、さらに市の地球温暖化防止基金に寄付をすると補助金が上乗せになるうえ、エコポイントもついてくるキャンペーンを実施しています。

市とは別に国の補助制度もあり、発電して余った電力の買い取り価格を上げることも予定されています。なお、補助制度などの詳しいお問い合わせは豊中市環境政策室までお願いいたします。

また、日常でも住宅メーカーなどの太陽光発電設備付き住宅の宣伝を目にするようになり、阪急電車に乗っ

ている高架の部分では、屋根に太陽光パネルを載せている様子が目に付くようになりました。着実に普及が進んでいるようです。（井上和彦）



骨太のエネルギー政策を

以上の報告のように、環境情報サロンの「太陽光発電」はしっかり働いていますが、これはエアコンが別回路になっているので、本当はもっと多く電気を使っています。

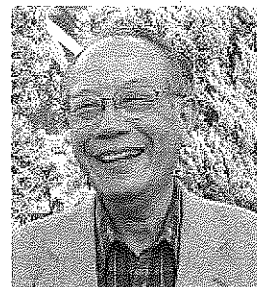
思い出すのは、半年ほど前のテレビで飯田哲也さん（NPO法人環境エネルギー政策研究所長）が日本の将来エネルギー展望として「100%代替可能エネルギーに転換できる」と言っていたことです。

彼はその内訳として、風力発電：25%、太陽光発電：25%、海流と波動エネルギー：15%、バイオマス：15%、地熱と水力：20%、とつじつまをあわせていました。ここまで到達するのは大変だとしても、豊中市で太陽光発電の補助金制度が広がり、今後どのようにして、どれだけ推進するか、もちろん国をあげて骨太の方針を持って進められることを願っています。（奥野）

環境とわたし

《21》

高藤 明さん
自然部会



昨今、環境問題といえば地球温暖化、地球温暖化といえばCO2排出となってしまった観があることに疑問を感じています。政府もCO2削減を呼びかけながら、高速道路を渋滞させ、CO2をまき散らす策をとっています。このままでは国民に何の益ももたらさない巨額なお金を支払って、外国から排出権を買うことになるでしょう。

ほんとうの環境問題とは一体何なのか、私自身まだ確たる見識もなく、マスコミの報道に左右されているのが実態です。環境問題について、私は在職中ほとんど関心を持っていませんでしたが定年を迎える頃、ふとしたきっかけで市民環境会議に参加しま

した。その頃、アジェンダ21の行動計画が熱心に議論されていました。何もわからないままお話を聞いているうちに、自分の不明を恥ずかしく思うとともに、皆さんの環境を守ろうという熱意にうたれ、次第に感化されていったように思います。早いものでそれから10年余り経過しました。そして今アジェンダ21自然部会の片隅で、相変わらず皆さんの見識に感服しながら、それでも自分にできることは何なのか、考え続けるようになったことはわずかでも進歩したのかな、と思ったりしています。

第2次豊中市環境基本計画の 素案づくりに向けて検討中です

「豊中市環境基本計画」が策定されてから今年で10年を迎え、「第2次豊中アジェンダ21」の素案づくりと連携しながら「第2次環境基本計画」の素案づくりに取り組んでいます。環境審議会や専門委員会のほか、庁内会議を開いて、専門家や現場の担当者からの様々な視点でこの10年間を検証し、現在の市を取り巻く現状をふまえて、今後の環境のまちづくりを展望していきます。

市民ワークショップを開催

「市民ワークショップ」を毎月1回程度開催し、市民や事業者の方々とともに、とよなかの環境の未来像を考えていきます。さらに次世代を担う子どもたちからも「こんなまちに住みたい」という思いを聴きます。

いただいたご意見は…

市民・事業者・行政の行動計画「第2次豊中アジェンダ21」と「望ましい環境像」「目標理念」を共有し、とよなかの環境をよくするために、それぞれがすべきこと・出来ることを、計画に盛り込んでいきます。

市民ワークショップの予定は、毎月の「広報とよなか」ほか、市のHPに掲載しています。皆さんふるってご参加ください！！



太陽エネルギー利用設備を 設置しませんか？

家庭生活中で排出される温室効果ガスの大幅な削減に効果がある、太陽光発電システム・太陽熱利用システムの設置に対する補助を行っています。

■内容=「太陽光発電システム」太陽電池の出力1kWあたり3万円、上限12万円まで補助。「太陽熱利用システム」設置費用の5分の1、上限6万円まで補助。

※「地球温暖化防止基金」に寄付いただいた方には、太陽光発電システムの補助金額の上乗せを受けることができます。

■募集期間=平成21年(2009年)4月1日から平成22年度(2010年)2月26日まで。ただし、先着順で受け付け、申し込みが予算額に達した時点で終了。

※いずれも着工前に申し込みのこと。

問環境政策室 6858-2127

夏の省エネルギーキャンペーン 6/1~9/30


「クールビズ」で、さわやかに





電気、ガスなどのエネルギーの消費を抑えると、温室効果ガスの排出が削減できます。


地球温暖化防止のため、冷房時の室温を28度に設定し、職場でも家庭でも軽装スタイルで夏を過ごしましょう。


スケジュールのお知らせ

 **竹炭焼き、竹きり (6月~9月)**
毎月実施します。 9時~12時
千里中央公園他 詳しくは事務局まで
(8月の竹炭焼きは休みます)

 **おもちゃ病院 (6月、8月)**
第2土曜日 10時~12時
環境情報サロン

 **とよっぴー有料頒布 (6月~9月)**
第2土曜日&第4水曜日 10時~11時
緑と食品のリサイクルプラザ
(7月の第4水曜日と8月は休みます)

 **水生生物観察会**
7月18日(土) 9時~11時30分
5歳以上の子どもから大人まで40人
阪急豊中駅人工広場集合~千里川中域、箕輪小橋、箕輪橋
雨天の場合は、20日(祝)に延期

 **豊中まつり協賛**
活動パネルの展示、手作り講習会(1日のみ)
自然工作、竹炭・竹酢液の頒布など
8月1日(土)、2日(日)
環境情報サロン

ご寄付のお礼

- ・定額給付金寄付キャンペーン(5月末現在)
豊田俊一様、猪尾英雄様、井下祥子様
匿名(2人)
- ・その他の寄付
山口壽様

ありがとうございました。

環境クイズの答 ①3千円 EUでは2005年から取引が始められトン当たり20ユーロぐらいで価格が安定してきたと「エコノミスト」(08.5.13)に書かれていました。言うまでもなくこれは京都メカニズムとして取り入れられた考え方で、日本でも現実化するよう、2年ぐらい前から議論が始まっています。

編集室から

▼今や先進国と自称する中で、CO2削減の中期目標を持たない国は、恥ずかしながら日本だけになってしまった。私たちはこつこつとエコな暮らしに努めているのに、そんな国民の努力が見えていないのか、高速道路を安くして車社会を推奨したり…。(Z)

▼豊中の緑はどんどん減っています。「未来の森づくり」で竹ポットにどんぐりを植えました。3本とも順調に育ち9cmになりました。萌えるような若葉が濃い緑になりしっかりしてきました。春頃敵地に植えかえるのが楽しみです。(H)

▼米コーネル大学の研究チームによると「大部分のバイオ燃料が産み出すエネルギーはその生産に投入されるエネルギーよりも少ない」一方世界の栄養不良人口が37億人(2005年・WHO)に達したという。農地と水資源は食糧生産に使って!(Y)

▼とよっぴーは木の枝の切りくずと園児の給食の食べ残し(生ゴミ)を原料として製造されます。その大量の生ゴミはとよっぴー製造施設(リサイクルプラザ)に運び込まれます。その生ゴミを見ると心が痛みます。あ~あもったいない!これこそが正に“飽食の功罪”と思います。(S)

▼新型インフルエンザ対策で街ではマスク姿が多く見られます。明るいニュースがあまりないこの頃ですが、家の玄関先で釣鐘草やご近所さんから分けていただいた名前も知らない花が元気いっぱい咲いているのを見ると気持ちが明るくなります。周りの小さな変化を見逃さないことは大切ですね。(KS)

▼「いらなくなった自転車があるけどいらない?」というお誘いをもらいましたが、10年以上使っている愛用の自転車の調子も悪くなかったので断りました。ところが、その後からペダルが壊れ、タイヤがパンクし…。長く大切に使うのも大事ですが、見極め時も重要だということを実感した今日この頃です。(A)

▼花壇の植え替えにコンポストを開けたら、黒くていい感じの土ができていました。野菜クズが土に還ったのを実感し、ちょっと嬉しい瞬間でした。(P)

《広報チーム》

Z奥野、H岡、Y小村、S猪尾、KS村辺、A廣田、P大村

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>
Eメール ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp